

第1回 六甲山系学習ゾーン検討委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成18年10月30日(月) 13:30~15:00

2. 開催場所：神戸国際会館 8F 2号会議室

3. 出席者：

【委員長】 田中 眞吾 神戸大学名誉教授

【委員】

大藪 典子	東灘区まちづくり推進課長	欠席
後藤 宏二	六甲砂防事務所長	
嶋津 敏幸	灘五郷酒造組合常務理事	
大黒 孝文	神戸大学発達科学部附属住吉中学校教諭	
豊田 實	神戸歴史クラブ理事長	
道谷 卓	姫路獨協大学法学部助教授	
宮田 隆夫	神戸大学理学部教授	
室谷 弘文	住吉川清流の会会長	欠席
山本 眞敬	市立住吉小学校PTA会長	

【事務局】

六甲砂防事務所	諸留副所長、石尾課長、狩集建設専門官、牧野技術員
株式会社エイトコンサルタント	伊藤、岩田、田中、長谷川、井川、苦瓜、梶原

4. 配付資料

- 議事次第
- 資料①：委員名簿
- 資料②：設立趣意（案）、規約（案）
- 資料③：検討内容・委員会スケジュール（案）
- 資料④：住吉川について
- アンケート

※嶋津委員より資料提供

5. 議 事

1. 開会	・六甲砂防事務所 諸留副所長あいさつ
2. 六甲砂防事務所 あいさつ	・六甲砂防事務所 後藤事務所長あいさつ
3. 委員紹介	・事務局による検討委員会委員の紹介
4. 委員会設立趣意、規約	・事務局による設立趣意（案）、規約（案）の説明 ・委員による設立趣意、規約の承認 ・田中眞吾委員長の選任
5. 本委員会での検討内容について	・事務局による検討内容及びスケジュールの説明 ・委員による検討項目・スケジュールの承認
6. 住吉川について	・事務局による資料説明（配付資料④）
7. 学習ゾーンについての意見交換	・委員による、住吉川を対象とした学習ゾーンの検討について意見交換（別項参照）
8. 次回委員会の予定について	・第2回検討委員会前にヒアリング等により意見収集を行い、それらの結果をもって次回委員会を開催することを確認 ・第2回と第3回検討委員会は上記の理由により12月上旬を目処に1回集約して行うことを確認
9. 現地見学	・住吉川沿川の史跡等見学

6. 学習ゾーンについての意見交換 意見概要

委員による学習ゾーンへの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸深江生活文化史料館に所属し、東灘を中心とした神戸の郷土史を研究している。 ・「住吉川清流の会」の発足20周年記念誌の中で「住吉川とその周辺の歴史」を取りまとめている。 ・住吉川には史跡などを通じ、上流から下流にかけて歴史をたどることのできる軸がある。つまり「過去から未来へのタイムトラベル」ができる川であると考えている。 ・渦ヶ森断層や銅鐸の出土、江戸時代の水車跡、神社仏閣、住吉川の鉄道トンネル、谷崎潤一郎の旧宅倚松庵、酒蔵など、山から浜へ歩くとまちの歴史が分かる川であり、学習の対象にしてはどうかと提案していきたい。
（道谷委員）

（次頁に続く）

委員による学習ゾーンへの意見

- ・「神戸歴史クラブ」という活動団体を立ち上げている。また、「六甲山自然保護センターを活用する会」などの会にも参加している。
- ・六甲山を見直そうという動きの中で、地域性を活かした六甲山系の山々の教材化を目的として「いきいきワクワク体験マップ」を作成し、教育機関に配布した。
- ・昭和 13 年の阪神大水害の発生当時、小学校 6 年生であった私は、西郷小学校の屋上から土石流が流下する状況を見ていた。多量の水を含んだ山が膨れ上がったように見え、土砂を抱えきれなくなった山が土砂を吐き出して、土石流が吹き上がってきたのを覚えている。
- ・平成 11 年、六甲山の利用状況などを調査した結果、車で登っている人が多い。災害など身近な地域のことを学んでもらうためには、地域を学ばせる必要があり、住吉小学校の子ども等が住吉川を研究していただければと思っている。また、他の教育機関も連携して、東灘全体で取り組んでいくことも重要である。

(豊田委員)

- ・六甲山系を横切る五助橋断層は、六甲山系の断層の中で一番大きい断層である。それに沿って地下 7km 程のところで作られた物質が地表に見えており、このことから、この断層は地下 5km 以上まで伸びていることが推定できる。
- ・兵庫県南部地震で住吉川流域まで地下の断層が動いたことが分かってきた。五助橋断層帯に沿って地震時に地すべりなどが発生しており、兵庫県南部地震の際にどういうことが起こったのか、ということを知る上で良い教材がある流域である。
- ・自然の産物として断層の露頭が見られるという点で、学習素材として適しており、活用すべきであると考えている。
- ・県の取り組みにより、高校生を対象として、自然をフィールドとした教育活動を行っている。六甲山系学習ゾーンの検討の中で現地見学の出来るフィールドが整理されて行くと、そういった教育の取り組みにも役立つのではないかと思う。

(宮田委員)

(次頁に続く)

委員による学習ゾーンへの意見

- ・宮崎大学、愛媛大学と協力して遠隔共同学習を実施しており、火山灰の学習を行うという企画を今年の4月から始めた。その一環としてアカホヤ火山灰を探している中で、六甲砂防事務所と田中眞吾先生のご協力を得られることとなり、生徒と共に西滝ヶ谷を訪れたことが、この委員会に参加するに至ったきっかけである。
- ・中学校における学習と六甲砂防事務所が防災の視点から学習を組もうとしていることのコーディネーター的な役割を担って行ければと考えている。
- ・中学校では自然、史跡、環境問題などをテーマとして校外学習を、各地に素材を求めて行っている。しかし、西滝ヶ谷へ向かう行程の中で、住吉川流域にはそれら校外学習に利用できる全ての題材があるということに気がついた。
- ・住吉川流域に住む子ども達はその自然を、そしてまちを守っていくんだ、という人間に育っていくために、どういう学習を組めるかということが大事である。そのためには、子ども達の興味関心をどう引きつけるか、何を知識として与えるか、そしてどう考えさせて行くのか、ということを考えて行かなければならない。
- ・そのことを教師の仲間に話してみたところ、例えば美術の教師は、住吉川流域の花崗岩を用いて造形物を作り、それを利用したギャラリートークを行うといったプランも出てきた。
- ・他にも、掘り出した御影石を使った造形物の製作、GPS携帯を用いた位置情報と学習情報の提供システムなどの取り組みもあり、協力を依頼することができる。

(大黒委員)

- ・御影などこの周辺の酒蔵では、敷地内の井戸から地下水を採取している。井戸は浅井戸で、地下4,5mから染み出している地下水を使っているが、街の発展に伴い、雨水の地下浸透も減っているのではないかと、道路や上下水道などの地下工事によって地下水の通り道が遮断されないかなど地下水の枯渇について危機感を持っている。こうした都市化の現状から20年30年先の地下水の確保が心配である。
 - ・住吉小学校の3年生の児童を対象に、地元産業の紹介というテーマで講義行ったことがある。
- ※水車に関する資料提供。

(嶋津委員)

(次頁に続く)

委員による学習ゾーンへの意見

- ・幼少期から住吉川に在住しており、私自身も川で遊んでいた経験があるが、神戸の中でも住吉川は生活に密着した川であると聞いている。
- ・住吉川では3つのことを学ぶことができると考えている。
 - ①生態系の学習。トンボやサワガニなど実際の生き物たちとのふれあいを通じて学んで欲しい。
 - ②地形・地質の学習。「断層」や御影石など、それを実際に見て触れることが出来る環境があるという点を活かすことができる。
 - ③歴史の学習。何故、灘に酒蔵ができて発展してきたのか、といった住吉川周辺にある題材を掘り下げて子ども達に勉強させたい。私が小学生のころ、社会の授業で用いていた「東灘区の史跡と木陰」という教材をもとに、史跡を探しにいった思い出がある。
- ・また、住吉川で「遊ぶ」ということにも配慮した計画にできたらとも思う。

(山本委員)

- ・六甲山の花崗岩と言え、御影石など硬い石をイメージする。実は風化が進んでいて非常に脆くなる性質がある。また、六甲山のアカホヤ火山灰層の上には、通常よりも厚く土砂が堆積している。六甲山がいかにより多くの土砂を生み出してきたのかを示している。こうしたことを子供に体験してほしい。
- ・天井川は、地域の人々にとっては日常的な風景であるが、その形成過程についても、草津川などの類似例と比較しながら学んで欲しい。
- ・六甲山の川は急流で水量が多いため、水車産業などの発展に貢献した一方で、災害ももたらした。産業の発展と災害というのは密接に関わっているということを、理解してもらえる学習の仕組みができないかと考えている。
- ・地域の史実を掘り起こしながらそれらを組合せてストーリーを作り、学習のプログラムできれぱと考えている。

(後藤委員)

- ・ヘルマンハイツなどからは段丘、台地、断層、扇状地の形などを見ることができる。横から土地を眺める視点というのも大事だと考えている。
- ・いろいろな意見を集約するのは大変であるが、子ども達や地域の人々が喜ぶものを作っていきたいと考えている。

(田中委員長)

(以上)